

国語科学習指導案

指導者 阿部俊一

1. 日時 平成17年 8月31日(水) 第5校時
2. 学級 2年2組 男子19名 女子13名 合計32名 南校舎3階
3. 主題 本の世界を広げよう 「短歌と俳句、それぞれの表現」 (光村図書「国語2」)

4. 主題について

短歌と俳句は、我が国に固有の詩の形式(短詩形文学)であり、私たち日本人々にとって大切にすべき伝統文化の1つと考えられる。5音と7音の組み合わせによる音数律は日本語の音の性格に深く根ざして生まれたこと、長い時空を超えていつの時代にも人々の傍らにあり続け育てられてきたこと、そしてその歴史のなかで磨かれた表現は今日もまた私たちを引きつける多様な魅力にあふれていることなど、生徒たちに読ませる価値が高い題材といえる。また、文学的な文章のひとつとして小説のような散文や詩とは別の表現のしかたに目を向けた学習ができる素材である。その表現は短いゆえにより凝縮され、表現技法の効果や語の重み、語の組み合わせの効果などに注意して読むことにより、描き出された自然の美しさや人間の心情がより深みをもってとらえられるであろう。そうした学習経験により、生徒たちには、表現に目を向けながら文章の内容を理解する力がつくであろうし、語感が磨かれる学習となるであろう。ひいては自分の表現に生かすことも期待される。さらに、短い詩である短歌や俳句は、読みやすさと生徒の感性に響く深さを併せ持っている。進んで読書に親しむ意欲や態度を育てる上からも好材と考える。

生徒たちは、小学校の国語学習でも短歌や俳句について一度は学習してきている。また、生活経験的にも、芭蕉の句や百人一首、郷土の歌人石川啄木の短歌などを通して短歌や俳句に触れ、親しみを感じている生徒も少なくない。しかし、表現のしかたに目を向けて短歌や俳句の作品を読んだり味わったりする学習経験はこれまでは少なく、そうした力が身につけているとは言い難い。2年生になってからの読むことの学習では、詩の学習でも説明的な文章の学習でも表現のしかたに目を向ける学習活動を意図的に取り上げるようにしてきた。そうした学習に興味関心を示す傾向がある一方で、表現のしかたに注意したり、分析的に読むこと、技法などの用語を用いて説明することなどは、まだ十分にできるとは言い難い。短歌や俳句に対する親しみを大切にしながらも、表現のしかたに注意して読む力をさらに身につけさせたい。

そこで、以下の3点に配慮して指導に当たりたい。まず、生徒それぞれに、表現のしかたに気をつけて作品を読んで選ぶ学習活動を、中心に行いたい。その学習経験が大切と考えるからである。そのために、この学習活動に先だって、表現のしかたに目を向けさせ観点を押さえさせることで、作品を選ぶ「よりどころ」をおさえさせたい。観点としては、矛盾・表現技法(体言止め・比喩・擬人法・オノマトペ)・対比・ことば(の選択)・音のくり返しの5つをおさえる。2点目は生徒の思考の流れに無理なく沿う展開で学習を進めることである。その意図から学習材「短歌と俳句、それぞれの表現」の記述の順序に従って、前半部から短歌と俳句の歴史・約束事・特徴、そして観点を押さえさせること、続いて後半部の作品を読ませること、さらに学習材以外の作品を読ませることの順に進める。知識的学習から具体的な作品へ、教科書の作品から資料による多くの作品へと進めることで、学習意欲の広がり・深まりを期待したい。3点目は、少しでも多くの作品に触れさせ、少しでも多く表現に注意して読む学習経験を積むねらいから、自分で作品を選ぶ学習活動を2回行うことである。教科書の作品を対象とする1回目の学習をもとに、2回目の資料による学習に取り組みせ、多様な作品に触れさせるなかで短歌や俳句の多様な表現のよさに気づかせることができると考えるからである。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

国語への関心・意欲・態度	短歌や俳句の表現の仕方に注意しながら、作品を読もうとしている。
読むこと	短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたが好きな作品を選ぶことができる。
言語についての知識・理解・技能	好きな表現を取り上げたり、その表現について説明したりすることを通して、作品の中での語のはたらきや意味を指摘することができる。

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

本時は、生徒一人一人が表現のしかたに目を向け、「表現のしかたがよい・おもしろい」と思える作品を選び出す学習活動を中心に行う。表現のしかたをとらえる観点をもって、実際にいくつかの作品を読むのがねらいである。すなわち、この学習活動を経験することにより、情景や心情をとらえるというような「何が書かれているか」に注目する読みとは別の、表現のしかたすなわち「どのように書かれているか」に注目する読み方を身につけさせたい。個々に選び出した作品については、さらに学習が深められるよう、その中のどこの表現のしかたがよいのか・おもしろいのかを指摘させたり説明させたりしながら、表現のしかたについて学び合わせる。情景や心情の内容面に注目したり情緒的に作品を選ぶのではなく、課題の通り表現のしかたに注目して作品を選ぶことができれば、まずそのことを認めたい。的確に表現を指摘できたり、それについての的確に説明できたりしたことに対しては、さらに称揚し達成感をもたせることにより、学習に対しても短歌・俳句に対しても抵抗感をできるだけもたせないよう配慮したい。同じ理由から、作品の意味が理解しにくい部分については訳を与え、あくまで課題にそった学習がどの生徒にもできるよう配慮する。

(2) かかわり合いを生かす手だてについて

まずは前時の学習の想起から表現のしかたの観点を確認し、多くの作品に表現のしかたのよさ・おもしろさがありそうだとおさえることから学習課題を設定して学習の必然性を意識させたい。そのあとの学習課程として「見通しをもつ」「個による課題追求」「学び合いによる課題解決」「法則性をもつ」「ふり返り」と進め、それぞれの学習活動の必然性について生徒一人一人が意識できるようどんな理由で何に次に取り組むのかをおさえさせたい。「表現のしかたがよい・おもしろい」と思える作品を選び出す学習活動が中心になるが、この学習では前時に学習した表現のしかたをとらえる観点をよりどころとさせる。さらに、どこの表現のしかたがよいのか・おもしろいのかを指摘させたり説明させたりするなかでは、観点を表す用語や短歌や俳句に特有の用語などを「ことば」として意識的に使わせたい。

8. 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方(学習の仕方) D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導入	課題把握		1. 前時の学習を想起し、短歌と俳句について確認する。		1. 前時の学習を想起させながら、短歌と俳句の歴史・約束事・特徴などについては一問一答的に確認させる。 2. 前時の学習で取り上げた例の作品を示し、その作品のどの部分が表現のしかたとしてよい(おもしろい)のかをおさえながら、矛盾・表現技法・対比・ことば・音のくり返しの5つをおさえる。 3. 前時には触れなかった後半の8つの短歌と7つの俳句が学習範囲となることをおさえ、観点をよりどころとしながら自分の力で作品を読む課題の設定につなげる。	一斉 紙板書 観点確認シート
			2. 表現のしかたをとらえる観点を確認する。			
展開	課題追求		3. 学習課題を、把握する。			
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 表現のしかたをとらえる観点をもって作品を読むことによって、よい表現のしかたやおもしろい表現のしかたをしている作品を選び出そう。 </div>			
課題解決	課題解決		4. 学習範囲となる8つの短歌と7つの俳句を音読する。	6, 7 記述内容・発表内容	4. 現代語訳を加えた学習シートを配布し、音読させる。音読しながら意味をつかませ、学習課題の解決に対して見通しをもたせたい。音読のしかたを変えながら、3回音読させる。 5. 学習シートと前時の例を見比べさせながら、作品が決まったら抜き書き・具体的な表現を指摘して線を引く・観点のことばを用いた簡単な説明を書き込むの3つの作業を確認する。 6. B・C・E ・机間指導を行い、必要に応じて支援する。 ・手のつかない生徒については、学習シートをもとに作品の大意をつかませたり、板書を見て観点を押さえさせたりする。 ・どの観点を作品を読んでみたかを確認しながら、別の表現のよさ・おもしろさはないかも考えさせる。 ・7の学習活動につなげるねらいから、誰がどのようなとらえ方をしているかをおさえしておく。 7. A・E ・作品ごとに取り上げ、表現の指摘と説明をさせる。観点を表す養護等を「ことば」として正しく豊富に使わせる。 ・自分が選ばない作品についても学習シートに書き込ませ、理解させる。 ・課題の通り表現のしかたに注目して作品を選べたこと、的確に表現を指摘できたり、説明できたりしたことを認める。	学習シート 学習シート 個 一斉
			5. 学習の仕方を確認する。			
まとめ	まとめ		6. それぞれに短歌と俳句を読み直し、表現の好きな作品を抜き出して書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたが好きな作品を選ぶことができたか。 </div> G1: 短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたがよいまたはおもしろい作品を選び、そのよさやおもしろさについての的確に説明している。 G2: 短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたがよいまたはおもしろい作品を選んでいる。 G3: 資料を与えて作品の大意を把握させるとともに、表現のしかたをとらえる観点を確認させてもう一度読ませる。		
			7. 選んだ作品とその表現について話し合う。			
まとめ	まとめ		8. 短歌や俳句の表現には、どのようなよさやおもしろさがあったかをまとめをもつ。	9. 記述内容	8. 7の作品ごとに見てきた学習を、観点に従ってとらえなおし、表現のしかたに注意して作品を読む方法とその楽しさについて確認する。 9. 授業記録(自己評価)として、本時の学習からわかったこと、自分の取り組みについての評価など項目に従って書かせる。	個 ノート
			9. 授業記録を書く。			
まとめ	まとめ		10. 次時の見通しをもつ。	G1: さまざまな表現のよさや違いについて深めたり整理したりしながら、教科書以外にも広く短歌や俳句を読もうとしている。 G2: 短歌や俳句の表現の仕方に注意しながら、作品を読もうとしている。 G3: 情景や心情の比較的とらえやすい作品や表現の特徴がとらえやすい作品に注目させることから興味・関心を引き出す。	10. 次時に使う学習シートを見せて、さらにたくさんの短歌や俳句を同じやり方で読む次時の学習内容を予告する。	学習シート

2 年 国 語		単元（題材）名 本の世界を広げよう「短歌と俳句、それぞれの表現」(光村図書「国語2」)			総時間 3 時間扱い	
学習指導要領の指導事項 C（読むこと） ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。 [言語事項] (1)ウ 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。						
単元の目標		主な学習活動	評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
表現の仕方やその効果、短歌と俳句の表現形式としての特徴などに注意して、作品を読むことができる。		「短歌と俳句、それぞれの表現」を読んで、短歌や俳句の歴史や約束事、表現形式としての特徴などをまとめる。 表現のしかたやその効果を考えながら、好きな作品を選ぶ。	B = 「おおむね満足できると判断される状況」	短歌や俳句の表現の仕方に注意しながら、作品を読もうとしている。	短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたがよいまたはおもしろい作品を選んでいる。	好きな表現を取り上げたり、その表現について説明したりすることを通して、作品の中で語のはたらきや意味を理解している。
			A = 「十分満足できると判断できる状況」の例	さまざまな表現のよさや違いについて深めたり整理したりしながら、教科書以外にも広く短歌や俳句を読もうとしている。	短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたがよいまたはおもしろい作品を選び、そのよさやおもしろさについての的確に説明している。	好きな表現を取り上げたり、その表現について説明したりするなかで、作品の中で語のはたらきや意味を的確にとらえて説明している。
			C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例	情景や心情の比較的とらえやすい作品を読ませることから興味・関心を引き出し、他の作品も読ませる。	資料を与えて作品の大意を把握させるとともに、表現のしかたをとらえる観点を確認させてもう一度読ませる。	特徴のないいくつかの語を取り上げ、似た語と入れ替えた場合と比べさせながら、理解を深めさせる。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	1	短歌や俳句の歴史や約束事、表現形式としての特徴をまとめ、作品の表現のしかたをとらえる観点をつかむことができる。	短歌や俳句の歴史や約束事などをまとめ、作品の表現のしかたをとらえる観点をつかむ。	歴史や約束事、表現形式としての特徴などから短歌や俳句に関心をもち、さまざまな作品を読もうとしている。	短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読むための、表現のしかたをとらえる観点を整理しまとめている。	
2	2 本時 (1/2)	表現の仕方やその効果に注意して、作品を読むことができる。	表現のしかたやその効果を考えながら、好きな作品を選ぶ。	短歌や俳句の表現の仕方に注意しながら、作品を読もうとしている。	短歌や俳句の表現の仕方やその効果に注意しながら作品を読み、表現のしかたが好きな作品を選んでいる。	好きな表現を取り上げたり、その表現について説明したりすることを通して、作品の中で語のはたらきや意味を理解している。